

製品名: COL25A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09181**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	64kDa

抗原情報

遺伝子名	COL25A1
別名	COL25A1; Collagen alpha-1(XXV) chain; Alzheimer disease amyloid-associated protein; AMY; CLAC-P
遺伝子 ID	84570.0
SwissProt ID	Q9BXS0
免疫原	抗血清はヒトコラーゲン XXVa1 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 101-150

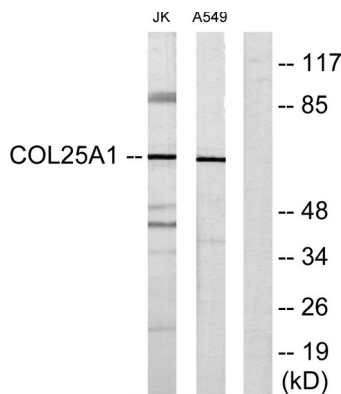
背景

この遺伝子は、脳特異的な膜関連コラーゲンをコードしています。コードされているタンパク質 CLAC (コラーゲン性アルツハイマー

アミロイドプラーク成分) のタンパク質分解産物は、アルツハイマーアミロイドプラーク中に見られるアミロイド β ペプチドに結合しますが、CLAC はアミロイド線維の伸長を促進するのではなく阻害します (PMID: 16300410) 。しかし、マウスにおけるこのコラーゲンの過剰発現に関する研究では、病理学的および行動学的変化が認められ、コードされているタンパク質がアミロイドプラーク形成を促進する可能性が示唆されました (PMID: 19548013) 。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2011 年 12 月],注意: PubMed:11927537 で報告されているピロリドンカルボン酸は、70%ギ酸抽出工程中にグルタミン酸 113 番から人為的に形成されたものと考えられます。PubMed:15522881 では、このタンパク質の N 末端のグルタミン酸がブロック解除されていることが確認されました。機能: β アミロイドペプチドの伸長段階における線維化を阻害します。また、アミロイド線維をプロテアーゼ耐性凝集体に組み立てることも示されています。ヘパリンに結合します。PTM: グリコシル化されています。PTM: プロリン残基の 11%とリジン残基の 49%が水酸化されています。PTM: フーリンプロテアーゼによるタンパク質分解で分解され、可溶性のコラーゲン様アルツハイマーアミロイドプラーク成分が生成されます。類似性: 7つのコラーゲン様ドメインを含みます。細胞内局在: タンパク質分解により分解された後、CLAC が分泌されます。サブユニット: ホモ二量体およびホモ三量体を形成します。 β アミロイドペプチド 40 (β -APP40) および β アミロイドペプチド 42 (β -APP42) の線維化型に結合します。 β -APP40 よりも β -APP42 との関連が強いことが知られています。組織特異性: 主に脳で発現しています。アルツハイマー病に典型的な原始的または神経性アミロイド斑に優先的に沈着します。

研究分野

画像データ



コラーゲン XXV α 1 抗体を用いた Jurkat 細胞および A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。